

# TOKIWA

2025

はるなつ

vol.219

INTERVIEW

未来の介護事業の姿の創造に寄与したい





今号では、特定非営利活動法人 千葉市老人福祉施設協議会の会長 福田誠夫様にインタビューしました。

### ― 福田様は、どのようなきっかけで今のお仕事をするようになったのでしょうか？

私は、大学を卒業後10年間一般企業で働いていたのですが、父が老人保健施設を立ち上げると聞いたので、少しは役に立つかと思ったことと、育ててくれた感謝もあり福祉関係の仕事に就きました。

### ― 千葉市老人福祉施設協議会の会長の役割や仕事の内容を教えてください。

2023年6月より会長に着任しています。高齢者の皆様や高齢者施設を経営している方々へ情報発信をすると共に、全国老人福祉施設協議会や千葉県高齢者福祉施設協会との連携、情報共有を行い、高齢者の皆様がよりよい生活ができるように、また、福祉施設や事業所を経営している方々が健全に経営できるようにお力添えすることができたと考えております。また、研修や意見交換の場を提供し、職員の質の向上に寄与できればと思っています。

### ― どのような時にこの仕事をしていてよかったと思われますか？

社会福祉法人はつらつの里では理事長・施設長のお仕事をしていますが、入所されている方々から笑顔や色々な話をして頂いた時が一番嬉しく思います。また、千葉市老人福祉施設協議会では、他法人の理事長様や施設長様と情報交換を行い、悩みや問題等を解決できたときが良かったと思います。

### ― 千葉市老人福祉施設協議会として、今後どのようなことに力を入れていきたいと思われますか？

引き続き、全国老人福祉施設協議会や千葉県高齢者福祉施設協会と連携し、情報共有を行い千葉市内の施設経営されている方々が健全な経営ができるように努めて参りたいと思います。また施設運営での問題点を洗い出し、千葉市行政へ要望を提出し改善できたらと思います。

### ― ときわ園にはどのような魅力があるか教えてください。

ときわ園様は、母が健在だった頃から

お付き合いがあり、当時落合施設長様がいらっしゃったときに、パワーリハビリテーションを導入され、見学をさせて頂いた思い出があります。現在もアットホームで三枝理事長様をはじめ酒井施設長様がしっかりと管理されているので、利用されている方々の笑顔が絶えないとても良い施設だと感じております。

### ― ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

今後は、介護人材不足や物価高騰により経営の不安定が懸念されているので、ICTや介護ロボットやAIの導入を行っていく必要があると感じています。引き続き、酒井施設長様と意見交換や情報交換を行い、未来の介護事業の姿を創造していけたらよいと感じています。施設運営を工夫し、高齢者の皆様が安全で安心して楽しく生活できるように維持されることを祈念しております。

福田様、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。

## 2025年問題

「2025年問題」という言葉を耳にされたことはありますか。2025年には、団塊の世代(1947年～1949年生まれ)が全員75歳以上となり、日本はかつてない超高齢社会に突入します。それに伴い、介護を必要とする高齢者の増加が見込まれ、医療・福祉の現場では今、大きな転換期を迎えています。

私たち介護施設が直面している主な課題は、「人手不足」と「医療との連携」です。介護の現場では、専門的な知識と経験が求められる一方で、慢性的な人材不足が続いており、職員一人ひとりの負担が年々増しています。また、高齢者の多くが複数の慢性疾患を抱えているため、医療との密な連携も不可欠です。

こうした課題に対し、私たちはさまざまな対策を講じています。例えば、ICT(情報通信技術)を導入し、記録業務の効率化や、ケアの質の向上を進めています。また、地域の医療機関との連携体制を強化し、今年4月からは、医療的な問題が発生した際に24時間

専門的な相談ができるオンコールサービスの利用を開始しました。これにより、緊急時にも迅速に対応できる体制づくりを進めることができました。

さらに、人材確保に向けた取り組みとして、今後も外国籍の職員など多様な人材を積極的に受け入れ、業務に支障が出ないよう、必要な知識を短時間で受講できる研修システムを導入しました。引き続き、働きやすい職場環境の整備にも力を入れていきたい

と考えております。

2025年問題に続き、2030年問題、2040年問題などが取り上げられていますが、将来起きるかもしれないことを心配し過ぎても、良い結果にはつながりません。先々のことを心配し過ぎないで一日一日の問題に取り組み、一つひとつの課題に丁寧に向き合いつつ、法人理念である「安心して暮らせる福祉施設」として、地域とともに歩んでいきたいと考えております。

理事長  
三枝 弘朋



## 高齢になっても安心して過ごせる環境作りのお手伝いをさせてください

在宅支援のケアマネジャーは主に自宅で生活をしている高齢の方々に住み慣れた自宅で安心して生活を続けられるように環境作りのお手伝いをさせていただいております。自宅で生活を望んでいる方はとても多く、また高齢となり自宅での生活に不安をお持ちの方も多くおられます。生活環境は個々に違い一人一人が望む生活も異なり、その中で課題を見つけ地域にある資源を一人一人どのように活用し自宅での

生活を続けていけるのかを一緒に考えています。安心して生活を続けていけるよう、毎月ご自宅を訪問しご本人の状況、サービスの確認を行い、変化が生じた際には再度アセスメント、サービス計画書を作成、担当者会議を開催し事業所と連携を取りながら生活に不安がないように支援方法を変更していきます。時には介護保険以外の公的支援に繋げることも一緒に考え支援します。高齢になっても安心して過ごせる環境作り

居宅介護支援事業所はるいろ  
ケアマネジャー  
高本 徳子



のお手伝いをほんの少しさせていただけたらと考えております。



左から高本ケアマネ・ご利用者・訪問ヘルパーさん

福田様が理事長・施設長を務める「社会福祉法人はつらつの里」の施設

感謝祭で挨拶する福田様





## デイサービスの活動

季節も変わり、暖くなりましたね。こもれびでは2か月に一度、工作レクリエーションを行い、「椿の壁飾り」「お雛様」「桜のキーホルダー」を作成しました。皆様のお好みでそれぞれキレイな作品ができあがりました。

これから園芸にて夏野菜に向けて皆様と知識を出し合い、草取りなど行い夏支度をしております。野菜の成長とできあがりを楽しみます。



カブの収穫



プランターにお砂を...



お花を植えました！



日光浴しました！



千支飾り、集中してます



個別レク棒引き！



ジェンガ対決！



キレイになりました！



ドキドキ、ヒヤヒヤ、



カレンダー作成！



掃き掃除中



工作レクお雛様



お雛様作りしました！



記念撮影



桜のキーホルダー  
キレイに出来ました！



素敵なお雛様！



工作レク椿の壁飾り



椿壁飾り



桜キーホルダー作成！



壁飾り頑張りました！

## ときわ園で充実したリハビリを

作業療法士 機能訓練士  
松本 輝明



初めまして、令和7年1月にときわ園に入職した作業療法士の松本です。デイサービスと短期入所のご利用者のリハビリを担当しています。皆様のリハビリをしっかりとサポートできるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

さて、当施設では3名の機能訓練士がご利用者にリハビリをご提供しています。各専門性を発揮しながら身体機能はもちろん、認知・精神機能面に対して個別にリハビリのご提供が行えるよう日々努めています。

設備面では充実した機能訓練室や季節ごとの花が咲く屋外庭園の歩行コースなど、季節感を得ながらリハビリが行える環境も整っており、個別対応で体を鍛えるだけでなく、気持ちの面でも充実できるリハビリのご提供が可能となっています。

これからも皆様が抱えるお身体の悩みや課題に対し、私たち機能訓練士が充実したリハビリをご提供していきます。リハビリに関してお悩みや心配事がありましたら遠慮なくご相談ください。



散歩しながら歩行訓練



リハビリの様子

## ときわ園に息づく、日本の魅力

新館3階介護職員  
アウン ナイリン



私の出身はミャンマーです。日本には、四季折々の自然の美しさや、丁寧に落ち着いた暮らし、そして人を思いやる温かな心など、たくさんの魅力があります。春には桜が咲き誇り、秋には紅葉が色づき、季節の移ろいの中に静かな感動があります。こうした自然と共にある暮らしは、私たちの心をやさしく包んでくれます。

ときわ園は、そんな日本の魅力を肌で感じられる場所です。豊かな自然に囲まれた環境の中で、ご利用者

がその方らしく、穏やかに過ごせるよう、私たち職員は日々寄り添いながら支援しています。表情や言葉に耳を傾け、小さな変化を見逃さず、その人の人生に敬意をもって関わることを大切にしています。

これからも地域とのつながりを大切にしながら、安心と温もりに満ちた時間を、ここで共に過ごしていけるよう、笑顔を忘れず努めてまいります。



ご利用者に優しく接するアウン職員



## ご家族とのつながりを大切に ～家族会を開催しました～

生活相談員  
堀 一恵



4月6日(日)、今年度の「家族会」を開催しました。当日は32世帯49名のご家族にご参加いただき、にぎやかで温かいひとときとなりました。今回の家族会では、「ご家族とのつながりを大切に」というテーマを掲げました。コロナ禍による面会や外出の制限が長く続いたことで、ご利用者のご家族が直接ふれあう機会が減っていました。だからこそ、改めて「顔を見て、同じ時間を共有して過ごすこと」の大切さを感じていただきたく、この家族会を企画しました。

当日は、はじめにご利用者の昼食の様子をご覧くださいました。希望されるご家族には、職員から食事介助の方法をご案内し、実際に介助を体験していただく場面もありました。目と目を合わせながら、お互いに笑顔がこぼれるあたたかな食卓の光景があらわに見られました。

昼食後は、天気にも恵まれ、園庭での散策や外気浴を楽しんでいただきました。春のやわらかな陽射しの中、ご家族

とご一緒にゆっくりと歩いたり、ベンチで談笑されたりと、それぞれのペースで穏やかな時間を過ごしていただけたように思います。園庭の草花を眺めながら季節の移ろいを楽しむご利用者の姿も印象的でした。日頃とはまた違った表情や反応が引き出され、「久しぶりにゆっくり過ごせた」「笑顔が見られて嬉しい」といった声のご家族から聞かれました。

その後、デイルームにて家族会を実施しました。施設長からの挨拶をはじめ、看護師、介護職員、さらに普段あまり接する機会のない機能訓練士や管理栄養士など、多職種の職員を紹介しました。看護師からは日々の健康管理や服薬管理について、機能訓練士からは身体機能に合わせたリハビリの様子について、管理栄養士からは個々の状態に応じた食事形態や季節感を大切にしたいイベント食の取り組みについてお話させていただきました。各フロアからも、写真を交えながら日常生活や行事の報告があり、ご家族からは「普

段の様子がよくわかって安心した」との感想もいただきました。また、施設からのお知らせとして、今後の利用料金や食事代の改定、請求書・お知らせの電子化(「つながる家族」システム)についてもご案内しました。ペーパーレスによる情報共有を進めていくため、ご家族にはシステムへのご理解とご協力をお願いしております。さらに、面会・外泊に関するルール変更についてもお知らせしました。4月21日(月)より、平日は10時～16時の間、予約なしで面会が可能となります(回数制限なし)。また、5月1日(木)からは食事を伴う外出や1泊の外泊も再開されます。内服薬の準備が必要となるため、希望される場合は1週間前までにお申し出いただけますようお願いいたします。

改めまして、ご参加いただいたご家族の皆様、ありがとうございました。今後もご利用者のご家族とのつながりを大切にしながら、安心して過ごせる施設づくりに職員一同努めてまいります。

## “寄り添う”ためのカギは？

最近「寄り添う」という言葉が良く使われていますが、私の働く環境で寄り添うためのカギは何かを考えました。4つのエッセンス(ほめる、ねぎらう、感謝する、気づかう)が重要なカギのように感じています。

ご利用者に対してはもちろんですが、職員同士や管理職の立場の方が寄り添って、ほめたり、ねぎらったりするなら働きやすい爽やかな職場になることでしょう。この点で私の周りでは「寄り添う」雰囲気がかかなり浸透していますが、ただ、職員は日常的に“仕事に追われて”おり、時には寄り添うゆとりを持ってない現状もあるように思われます。

そんな時、職員同士や上司のちょっとした感謝や気遣いの言葉はやる

気を起こさせてくれますし、相乗効果で他の人にも良い感化を与えます。それで、今後も、ほめたり、ねぎらったり、感謝や気遣いを示すことによって、「寄り添う」ことの大切さを思いに留めていきたいと願っています。



新館3階 介護補助  
田口 興司



清掃も介護補助の大切な業務

## いつも前向きに

施設長  
酒井 章年



広報誌TOKIWA2024年秋号に、「安全第一」という記事を寄稿しました。待望久しいボーイング社の有人宇宙船スターライナーが2024年6月5日に無事打ち上げられたものの、その後不具合が発生、国際宇宙ステーション上に一定期間係留された後、スターライナーは無人で地球に帰還するという措置が取られました。それにより、スターライナーの乗組員である二人の宇宙飛行士、ブッチ・ウィルモア氏とスニータ・ウィリアムズ氏の国際宇宙ステーション滞在期間が大幅に伸び、2025年3月18日に別の宇宙船クルードラゴンで無事

帰還を果たしました。当初の7日間宇宙滞在予定が9カ月に及ぶことになりました。

しかし、その間彼らは国際宇宙ステーション内の任務を忠実に実行し続けました。「NASAはこの二人を見捨てた」という意見が聞かれる中で、彼らは、決してそのようなことはないときっぱり否定。むしろ思いを見事に切り替えて、長期宇宙滞在を楽しむようになりました。

人生も仕事も思うようにいかないのは常のこと。どんな状況に置かれても、彼らのようにいつも前向きな気持ちをもち続けたいものです。



国際宇宙ステーション滞在中の  
ブッチ・ウィルモア氏(左)  
スニータ・ウィリアムズ氏(右)  
(NASA提供)



家族会の様子



ご利用者のご家族



ご利用者のご家族



ご利用者のご家族



# 活動ログ

24.11.25

日本語教育の推進を！

特別養護老人ホームときわ園は、昨年11月25日に文部科学省より日本語教育関係者会議(第8回)に招かれ、外国人職員への日本語教育の実情について発表する機会をいただきました。この会議は、「日本語教育の推進に関する法律」に基づくもので、日本語教育の総合的、一体的、効果的な推進を図るため、日本語教育に関し専門的知見を有する者、日本語教育に従事する者及び日本語教育を受ける立

場にある者から意見を聴くために開催しているものです。特別養護老人ホームときわ園では、5/1現在17名の外国人職員が在職しています。皆、一生懸命日本語を勉強しながら介護の仕事に従事しています。限られた資源の中でも事業所として日本語教育を一層推進していけるよう、行政サービスが充実することを願っています。



文部科学省 日本語教育推進関係者会議(第8回)の様子

25.03.19

夜間でもご利用者を守ります

特別養護老人ホームときわ園では、3月19日、夜間帯を想定した避難訓練を実施しました。この訓練は千葉市の条例で定められている訓練で年1回以上行わなければならない。

夜間は夜勤の介護職員のみ勤務となり、火災、その他何か不測の事態が生じた時にも、それらの職員のみでご利用者を守らなければならない。夜勤を行

う介護職員に非常用設備の使い方を教えた後、実際にその設備を使いながら避難訓練を行いました。火災を想定したのですが、訓練を受けた介護職員たちにより順調に避難訓練を行うことができました。実際の災害の時は訓練以上のことは行えないと言われます。これからの実践的な訓練に取り組んでまいります。



非常用設備の操作を学ぶ介護職員

25.04.04

菜の花と共に

「デイサービスセンターこもれび」では、ご利用者にリハビリテーションをかねて「こもれびの庭」と名付けている園庭を散策していただきます。4月に入り、「こもれびの庭」の草花の成長が著しい状況です。リハビリテーション担当の職員と歩行していただいている途中、菜の花畑に通りかかり、思わずにっこり、立ち止まってしまう。草花の美しさを堪能しながらリハビリテ

ーションを楽しめる、「デイサービスセンターこもれび」ならではのサービスです。



菜の花と共に

## 編集後記

今回は、「春・夏」とさせていただきます、年2回の発行となります。次回は「秋・冬」号で来年1月発行の予定です。広報誌発行の回数は少なくなりますが、ホームページやSNSでも情報発信を心がけておりますので、そちらも合わせてご覧ください。今回の記事にも掲載しましたが、4月には家族会を開催し、大勢のご家族に参加していただきました。ご利用者はもちろんご家族とのコミュニケーションの場は非常に大切であると考えています。ご多忙の中でのご参加に改めて感謝申し上げます。

